



② 仏壇の構造仕口の研究と試作

榎山和實

目的

大型化の傾向にある川辺仏壇の構造、仕口の改善と伝統技法の標準化を研究し試作を行う。

概要

需要が大型化しているために、従来製造していた小型仏壇から、中型、大型と急激に変化して来ている。そのため仏壇の大きさによって、部材の長さ、幅、厚さ等は勿論のこと構造、仕口も改善しなければならない。

(1) 設計図の作製

今回は18型の仏壇について、業界の設備及び技術を充分考慮して設計図を作製し、塗装組立てられる部品別現寸図を併記した。漆塗装の塗

り代りを1.5%に規正した。

(2) 設計図による試作

川辺仏壇協同組合の協力を得て試作した。

ア 木材、国有林払い下げの杉材を利用

イ 型式 18型半台付標準型仏壇

成果

伝統的技術技法の標準化については、検討会、研究会を重ねて量産化に努力しているが、寸法の問題、特に塗装後に組立てる為に、塗り代りを2%にしないと組立て中に損傷を生ずるので、設計図もそのように訂正した。

18型標準仏壇もこれで解決したことになり、次年度は22型（大型）を研究試作する予定である。